



一緒に戦った  
チームの皆さんと



松岡 玲さん(草加部)

4歳からポケットバイクに乗り始める。  
現在は真庭高校久世校地の2年生。  
各地で行われるロードレースに参加し、  
数々の好成績を残す。  
2019年の全日本ロードレース選手権併催  
MFJCUP JP250国内クラスで1位。

# 真

M A N I W A B I T O

# 庭

# 人

いろいろな人たち  
に支えられながら、  
春から新たなレー  
スに臨む松岡さん。  
皆さんからの応援  
を待っています。

族や学校の友人たちには精神的にもすごく助け  
られています。レースに集中できるのも周囲の  
人たちのお陰です」と話してくれました。今  
はこれまでよりも大きなバイクでの挑戦となる  
ため、松岡さんは「おじいちゃんの作ったお米  
をもりもり食べてトレーニ  
ングに励んでいます」  
とのこと。

まにわびと  
**10**  
2020

2019年のレースを振り返って17歳の松岡  
さんの口から出たのは、「ここでタイトルを取ら  
ないとレース人生が終わると思つていきました。  
勝負の年でした」という言葉。4歳の頃から父親の  
影響でポケットバイクに乗り始め、夢はプロのレ  
ーサー。そんな松岡さんは、全国6カ所で行わ  
れる全日本ロードレース選手権のJP250国  
内クラスに参戦し、チャンピオンを獲得しま  
した。松岡さんはこれを機に、最高時速190キロの  
250ccのバイクから、最高時速280キロの6  
00ccのバイクに乗り替え、国際ライセンスが  
必要になるST600クラスのレースに挑戦し

2019年の事故につながることもあります。全神経を集  
中しレースに臨んでいます。600ccのバイク  
に乗ることは恐さもあるけど、やっぱり新しい  
ことへ挑戦する楽しみがあります」と話す松岡  
さんは、春から始まるレースに向け、練習を始  
めています。

## 感謝と新しい挑戦

松岡さんがレースに出るためには、メカニッ  
クなどをはじめとするスタッフが必要です。ま  
た、サーキットには家族やファンの人たちも応  
援に駆け付けます。そんな周囲の人たちへの思  
いを松岡さんは「チームやファンの皆さん、家

## レースに全神経を注ぐ集中力

ます。「1つの操作ミスや、気持ちのズレが大変  
な事故につながることもあります。全神経を集  
中しレースに臨んでいます。600ccのバイク